

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

教育の税金

熊本県立玉名高等学校附属中学校

三年 岩井 凜

私たちは毎日学校へ行き、勉強することができています。これをあたり前だと思いがちですが、実は教育にも多くの税金が使われています。

教育への税金の使い道には主に次の三つが挙げられます。

一つ目は、学習環境の整備です。ここで思い浮かぶのは教科書の無償配布です。毎年、新しい学年になると教科書が全教科分配布されます。教科書の裏を見ると、「これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう」と書いてあります。つまり、私が今、手に持っている教科書は、国民一人ひとりが仕事をして、稼いだお金で成っているものなのです。このことを知ると、教科書をもっと大切に、丁寧に使おうと感じます。

二つ目は、教育に携わる人の給料です。正式には「義務教育費国庫負担金」といい、教育費のうち三割弱程度を占めています。税金は、私たちに勉強を教えてくださいと先生方の給料にもなるのです。

三つ目は、新しい研究・開発です。私たちが将来、快適に心地よく、暮らせるためにも税金は使われています。具体的には、宇宙開発や海洋開発などの科学技術の振興のために使われています。今後の日本の技術の進歩には、税金が関わっているのです。

このように、税金は教育にもたくさん使われています。教科書の無償配布などの身近なところから、新しい研究・開発のところまで広い分野で使われている税金は日本の将来を担っていると思います。

税金は何のためにあるのか、何に使われているのかを知らないと、税金は「何となく払うもの」「払いたくない」という気持ちになってしまいます。実際、私も税金についての講演を聞いたり、インターネットで調べてみたりして、一円のもつ価値を理解することができました。私たちが今、できることは、税金によってできている環境を大切にすることです。大人になっても、立派に税金を納められる人でありたいです。